

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700417		
法人名	社会福祉法人 篤心会		
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム(ユニット名:虹)		
所在地	〒962-0813 福島県須賀川市和田字沓掛48-1		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体機能の低下や認知症の重度化が見られるが、利用者が安心して生活できるように健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。日常的な外出は困難であるが、可能な限り外出を試み、草花の手入れや水やり、外気浴を楽しむ等の日常的に楽しみながら活動出来るような環境作りに努めている。また、エルピスホームは果樹園の広がる地域の一角にあり、目の前を通る道路は空港へと繋がりが、のんびりとした中にも、人々が行き交う様子が見られている。近くには牡丹園があり、様々な四季の様子を感じながら過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 起床、食事、就寝、入浴など、利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をしている。
2. かかりつけ医への受診、協力医による往診、さらに24時間オンコール体制が整っており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にてその日の担当職員の号令の後に出勤職員全員で理念を唱和している。理念を常に念頭におき、統一したケアを心掛けている。	事業所内に理念を掲示し、毎朝、朝礼の中で唱和し理念を共有し、利用者一人ひとりに寄り添った支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々とは、日頃より挨拶を行ない野菜や果物の差し入れを頂くなど交流がある。又、地域行事に見学や参加している。ホーム行事の際は地域の方へ参加を呼びかけているが、積極的な参加には至っていない。	日頃の関わりの中で、挨拶や野菜など農産物の提供を受けたり、地域行事への見学や参加をして交流に努めている。また、各種ボランティアの受入などを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解等の研修には参加はしているが地域の人々に向けては活かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域運営推進会議を開催。事業報告や意見交換を行っている。メンバーからボランティアの紹介があり受け入れをし、防災訓練についても提案があり訓練の予定に取り入れた。	定期的に運営推進会議は開催されているが、地元住民の参加が少なく会議の内容も定例報告が主となっている。また、その議事録の内容も十分とは言えない。	会議メンバーを増やし事業所の改善課題などについて提起して、率直な意見を頂きサービスの向上に反映させて欲しい。また、記録のあり方についても検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議への参加は依頼しているが、参加はされていない。	事業所として市の担当者に積極的な情報提供がされていない。	事業所の現状や推進会議結果報告、課題への助言を受けるなど、市の担当者と日頃から連絡を密にして、関係づくりに努めて欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の錠はかけず、チャイムを設置し来客が分かるようにしている。身体拘束については研修会の参加や内部勉強会に参加することで意識の向上に努めている。	事業所として身体拘束をしないことを徹底し、勉強会や研修会などにより意識の向上に努め、玄関の施錠を含め身体拘束による弊害の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会やミーティング等で学び、職員全員に浸透、厳守されるよう話し合い実行し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員により、利用者の状況によって必要な支援が受けられるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、介助時において経済的な不安や個人情報等を含め状況に応じて相談、支援している。 又、説明時には説明内容に不明点は無いが必ず確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで家族へ近況報告をしている。その際、要望などがあるか確認をし信頼関係の構築に努めている。	日頃の関わりの中で利用者の意見や要望を聞いている。また、家族等からは家族会との懇談会や、面会時や電話での状況報告時などを利用して意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングで管理者と職員の意見交換をし、反映している。又、年2回の個別面談を行ない、職員から出た意見や提案を管理者へ報告し、働く意欲の向上につなげている。	管理者は、年2回の個別面談や職員会議、ミーティング及び日頃の関わりの中で、意見や要望、悩みなどを聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度において職員の課業達成度を把握し、資格取得、昇進、賞与へ反映させることで、職員のやりがいや向上心を持って業務遂行できるよう努めている。 業務形態については可能な限り希望や家庭環境に配慮しているが十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や能力に応じた、各個人の目標、外部研修、内部研修による職員間での共有に努め、日々の業務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加する事で、他の事業所と情報交換に努めている。 また、グループホーム交換研修にも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人の思いを確認しながら必要なサービスの提供を行ない、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者、家族の不安・要望等を傾聴し、ホームの援助方針を話し合い確認しながら信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当ケアマネや利用者に関わっていた方などと連携を図り、利用者・家族がその時に必要としている支援を見極めその他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で出来ることは行って頂き、サポートが必要な方は一緒に行くことで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、利用者の状態を報告している。必要によっては家族へ相談し支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や友人が来訪された時には、居室にて気がねなく過ごせるよう環境作りをしている。また、利用者の馴染みの場所へ外出するなど関係が途切れないよう支援に努めている。	友人知人などが気安く来訪できる環境作りと、家族の協力も得ながら自宅や知人宅訪問、馴染みの場所へのドライブや食事などして、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上でテーブル配置を考慮している。また、一人一人が孤立しないよう気の合う方同士で散歩するなど関わり合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し併設の特養ホームへ入居された方に関しては、面会を継続している。退居された方の必要な情報も家族や他事業所へ伝え連携等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で意見を表出できる方には暮らしの希望や要望を尋ね把握に努めている。意見の表出が困難な方には行動や表情、家族の方々の情報により職員間で話し合いケアに活かしている。	日常生活の会話や表情の中から、本人の意向や希望を把握するよう努め記録している。また、意志疎通の困難な利用者には、日頃の行動や表情を把握し、家族の情報を得ながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話からの把握。また、家族面会時に家族へ尋ね生活歴や暮らし方、サービスの利用経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、気付いたことを職員間で話し合うことで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き、全職員がカンファレンスへ参加し意見交換を実施している。カンファレンスの内容によっては看護師や併設特養の管理栄養士へ相談し現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を聞き、全職員参加のカンファレンスやモニタリングを実施し、利用者と家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。また、状態変化に即した計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動や言葉をそのまま個人記録に記入し、職員間で情報を共有している。特別な変化が見られる時はカンファレンスを行い介護計画へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所(特養ホーム、小規模)と連携し、利用者の方との交流やレクリエーションへの参加を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の直売所やスーパー等で好みの物を購入して頂いている。慰問のボランティア見学や特養合同イベントに参加し、暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診体制を利用者と家族に確認して希望通りに支援している。受診時は職員が同行して受診結果はその都度家族へ報告している。必要に応じて受診や往診をしてもらえる協力病院との体制づくりができています。	本人、家族の希望するかかりつけ医を受診でき、受診結果の情報を共有している。緊急時も適切な医療を受けられる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の状態を確認してもらい、変化があれば報告・相談をし指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は少なくとも2日に一度は入院状況を確認する為に面会を行っている。その際、病院関係者に利用者の状態を確認するなど関係性を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」が作成され、契約時に利用者や家族に説明し同意をもらっている。身体状態や必要に応じて話し合いを行い、職員間で共有に努めている。	入居契約時やその後も随時見直したり状況変化時も状況に応じた支援をするよう本人、家族と話し合い、方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、新入職員には必ず看護師による指導を義務化している。また、同法人内で急変や事故発生時の対応訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議の日に参加された委員の方に訓練に参加して頂いている。近隣住民の協力を得ることも必要だが、具体的行動には至っていない。又、併設の特養との合同の防災訓練に毎月参加し内容の報告をしている。	夜間想定を含む火災時を想定した災害訓練を実施し消防職員の指導も受けているが、地震、水害などを想定した訓練や地域との協力体制はできていない。	火災、水害、地震など様々な災害を想定した災害訓練を実施し、全職員が避難方法を身につけるとともに、地域との協力体制も築いて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を把握した上で人格を尊重した声かけや対応をしている。個人情報保護の取り扱いについても契約時に利用者や家族に説明し同意をもらうなどの対応をしている。	一人ひとりの状況に応じて、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない職員対応が徹底できているかを接遇委員会を定期的に開催し、検討するとともに、全職員対象の接遇勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し自己決定できる場を作っている。意思表示が困難な利用者も表情や仕草から思いを読み取れるようコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思や思いを尊重し、一人一人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、化粧や毛染めの介助をしたり利用者が気分良く過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の下ごしらえや調理、盛り付け等を利用者と職員が一緒に行っている。また、職員も一緒に食事をし楽しい空間となるよう支援している。	食事に関するアンケートや一緒に食事をしながら嗜好やおやつ希望を把握し、外食、出前食、季節の献立に取り入れている。また、食事の下ごしらえなどを一緒に行い、楽しい食事になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表にて確認しながら摂取を確保している。また、個々に合った食事が提供できるよう看護師や併設特養の管理栄養士への相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせた口腔ケアを実施している。義歯洗浄剤や口腔洗浄液を使用し口臭予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の生活のリズムを把握した上で、トイレの声かけや誘導を行なっている。また、失敗のある利用者にはチェック表を用いて排泄の間隔を把握し、失敗の軽減に努めている。	排泄チェックしたり、一人ひとりの排泄パターンや表情を把握し、羞恥心に配慮した声掛けや自立への取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるよう食物繊維や乳製品等を取り入れた食事を提供している。また、腹部マッサージや軽い運動等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態や希望に合わせて入浴支援を行っている。また、一般浴が困難な方はリフト浴で安全に入浴している。	一人ひとりの状況や本人の希望に応じた入浴支援を行うとともに、ゆず湯など季節の入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や活動状況に合わせて休息の時間を設けている。また、居室だけでなく居間でも休める環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の説明、処方箋や薬事典等を用いて理解している。症状に変化があった時は看護師や医師に連絡し指示を仰ぐことができる体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握し馴染みのあることや出来ることを提供している。職員と買い物へ出掛ける等生き生きと生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物やドライブ、散歩へ出掛けている。また、家族の協力で墓参りや食事に外出している。	散歩、買い物、ドライブや花見、紅葉狩りなど季節の名所地に行ったり、外出、墓参りなど家族の協力を得ながらできるだけ希望にそって外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物へ出掛け、会計ができるよう支援している。また、困難な利用者は希望の物を預り金より職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をして欲しいと言う方もおり、電話し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に季節を感じさせる物を飾ったり、利用者の希望に応じた室温に心がけたり、生活する中で障害物となる物がないよう配慮している。	明るく落ちついた共有空間で空調も調整されており、植木、花卉、行事写真、共同作品があり、ソファ、ベンチ、イスなどで思い思いに寛ぎ居心地良く過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置してくつろげる空間作りに努めている。利用者同士で談話している姿見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	一人一人の利用者に合わせ馴染みの物や好きな物等を置いたり、家族と一緒に撮った写真を飾ったり穏やかに安心して頂けるよう工夫している。	本人、家族と相談しながらベッドの位置や家族写真、タンス、イス、テーブル、思い出の作品、飾り物などを持ち込み、穏やかに安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、浴室などの場所が分かるよう表示やどう行かうか説明書きを掲示するなどできるだけ自立して生活できるよう配慮している。		